

平成26年度第3回 英語学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成27年1月17日（土）17：00～19：00
- II. 場所：私立大学情報教育協会会議室
- III. 出席者：田中委員長、小林委員、原田委員、西納委員
（事務局）井端事務局長、森下主幹、
- IV. 配布資料
- 資料① 英語教育におけるアクティブ・ラーニングの事例研究 開催要項（案）
- 資料② 入学から卒業後までを見据えた体系的かつ段階的なカリキュラム編成
上智大学CLIL（内容言語統合型学習）
- 参考① 私立大学情報教育協会機関誌「大学教育と情報」2014年度No. 1, p. 8,
「学ぶ」から「できる」へ ～経営系科目のアクティブ・ラーニング～
- 参考② 私立大学情報教育協会機関誌「大学教育と情報」2014年度No. 1, p. 2,
“アクティブ・ラーニングとはなにか”
- 平成26年度化学教育FD/ICT活用研究委員会名簿
- 平成26年度 第2回 英語教育FD/ICT活用研究委員会議事録（案）
- V. 検討事項
1. アクティブ・ラーニング事例研究の対話集会の進め方について
 - ・開催内容、話題提供の内容検討
 - ・開催要項のとりまとめ
 2. 検討内容

3月に開催する対話集会の話題提供の内容、運営について検討し、以下の事例が紹介された。

 - ① 同志社大学がローム社の協力で行ってるPBL型アクティブ・ラーニングの事例
1年生をレベル分けしコミュニケーション力を強化する授業
 - ② 立教大学で行っているeラーニングを取り入れたプレゼンテーション、ライティングを初年次に行う取組み。テーマを決め、自分でドラフトを考え、ネット上で調べ、学んだ成果を発表する。
 - ③ 早稲田大学の事例
自律的な学習者を育てる英語教の取組み
 - ・応答練習

3人で1グループを構成し、1年は通年・2年は学期開始直後と終了直前、一人が質問を二回読み上げ、一人が回答する。1回の授業で10問・年間最大30回の授業、質問の最後は「根拠または具体例を述べよ」とする

- ・少人数プレゼンテーション
4人で1グループを構成し、1年秋学期隔週・2年学期開始直後と終了直前に一人が発表し、残り3人は途中で一回以上の質問を行う。
- ・CNN ニュース紹介
4人で1グループを構成し、1年春学期後半・秋学期隔週程度に一人が発表し、残り3人は途中で一回以上の質問を行う。

検討の結果、委員会として以下の2つの話題提供を行うことにし、プログラムを決定した。

- ・開催日時 平成27年3月6日（金）14：00～16：00
- ・開催場所 早稲田大学 8号館 3階 303会議室
- ・委員会の検討経過報告 田中委員長
- ・司会進行 西納委員
- ・話題提供
 - ①「自律的な学習者を育てる英語教育の取り組み」
原田 康也 氏 （早稲田大学 法学大学院 教授）
 - ②「英語で習得・考察・協働・遂行するグローバル教育の取り組み」
吉田 研作 氏 （上智大学 言語教育センター長 教授）

3. 次回委員会

次回は3月6日の対話集会とした。